

8 新しい安全針ハッピーキャスZ0の使用経験と 当院および県内透析施設の安全針の使用状況

上田透析クリニック

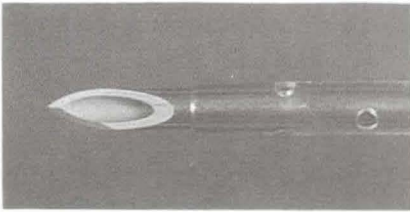
近藤富士美 江村明子 飯田美智子 深宮 真 村井ひとみ 山田和彦

【はじめに】

1) 最近、メディキット社で開発された安全機能付透析用穿刺針ハッピーキャスZ0の臨床評価、2) 当院での安全針の使用状況と問題点、3) 長野県内透析施設での安全針の使用状況を報告する。

【ハッピーキャスZ0の臨床評価】

ハッピーキャスZ0の針先は従来の針より細く鋭くて、内針は二段構造になっており、引き抜くと針先は上段の内針に収納され、さらに内針が硬質樹脂にカバーされる。外套針も先は細くなっており、十分の血流をえるために側孔のポアサイズが従来の針より大きくなっている (写真)。



この針での穿刺の感想では、スタッフほぼ全員が、「切れはよいが穿刺部の組織の硬い患者では針の挿入に抵抗がある」と感じており、人工血管でも、壁の硬い例での穿刺は力が必要であった。患者の中にも、針が血管に入る時に抵抗感を感じる人がいたが、穿刺痛の増強はみられなかった。

これは、外套針の針先の太くなる部位での抵抗によるもので、組織の硬くない患者の穿刺では問題なかった。

近藤富士美 上田透析クリニック

〒386-0033 上田市御所 674 TEL0268-27-3006

なれば、「この抵抗はあまり気にならない」というスタッフもいた。また、「針を持つ部位が四角形なので、違和感がある」との指摘があった。内針の抜けはスムーズで、針先の収納も問題なく、脱血も従来の針と変わりなく問題なかった。この針は先が細いので、細い血管の穿刺に有効と考えられたが、針先が鋭く、切れがよいので血管を突き抜ける可能性がある。

【当院での安全針の使用状況】

当院では現在、安全針はメディキット社のハッピーキャスVとニプロ社のセーフタッチカニューラGAを使用している。

好んでハッピーキャスを使用しているのは2名で、その理由は血液逆流防止弁があるからであった。一方、セーフタッチ派は3名で、ハッピーキャスVは逆流防止の操作が面倒だからという理由であった。どちらでも派は7名で患者の血管にあわせて使い分けをするとのことであったが、ハッピーキャスの操作を面倒がる傾向はみられている。残る2名は通常針を好んで使用している。

なお、多くのスタッフは穿刺の難しい例には安全機能のついていない針を好む傾向がある。それは、穿刺では、内針をある程度抜いて血液の逆流をみて針先が血管内にあることを確認するが、逆流がみられないとき安全針ではロックがかかって内針を戻すことができないから、という理由である。通常針では内針を戻すことは可能であるが、針先がシャープな内針を再挿入することは、外套針を傷つける可能性があり、実際そのようなことは起きているので、本来やってはいけない操作であるが、おこなわれているのが現状である。

【長野県内の透析施設での安全針の使用状況】

昨年末に長野県内の透析施設に安全針の使用状況のアンケート調査をおこなったところ、48施設から回答をいただき、回収率は72%であった。

その結果は、安全針を全例に使用しているのは3施設7%、感染症のある患者にのみ使用が14施設28%、使用なしが31施設65%であった。

使用していない施設のうち11施設では今後の使用を検討中であり、使用していない理由は、針のコストが高いが16施設で、次いで必要性をみとめないが8施設、理由記入なしが7施設であった。コストが高いのは導入している施設でも問題点としてあげられていた。

【考案】

安全針が発売されてから、すでに2年以上経つが、ある針メーカーのデータでは、透析用穿刺針の在庫率は通常針が94%、安全針が5%、ボタンホール針が1%で、全国的にみても安全針はあまり普及されていない。

その最大の理由はコストの問題であるが、スタッフや施設管理者がその必要性を認識していないことも大きな問題である。特にスタッフの多くは意外にも針刺し事故への認識の甘さがあるように見受けられる。

透析患者の肝炎ウイルスのキャリアーの多さを考えると、針刺し事故は絶対に避けなくてはならず、施設として、スタッフ個人としても十分考えなくてはいけない問題であると思われる。

【まとめ】

1) 新しい安全針ハッピーキャスZ0は、切れはよいが、組織の硬い例の穿刺では抵抗が強いのが問題であった。

2) スタッフの多くが、安全針があるにもかかわらず、穿刺の難しい例には安全機能の付いていない通常針を好んで使用する傾向がみられた。

3) 長野県内では安全針を全例に使用している施設は3施設7%、一部の患者に使用しているが14施設28%、使用していないが31施設65%であつ

た。使用しない理由の主なものはコストの高さと、必要性を認めないであった。

アンケート調査にご協力いただいた各施設に感謝申し上げます